

緑の風 FAX版



JR 東労組ホームページ

NO. 20 2019年9月26日 JR東労組

2019年平頂山事件平和研修開催！！

9月14日～18日にかけて、2019年平頂山事件平和研修を開催しました。九・一八歴史博物館では、当時の写真や映像で日本兵の残虐な行為を目の当たりにしました。また、日本が侵略するために柳条湖事件を中国軍の仕業にし、何の罪もない弱い立場の人間を虐殺した加害の歴史を学びました。

その後、撫順戦犯管理所で認罪教育について学びました。当初は、多くの日本兵が戦犯であることを認めず、反抗を続けていました。中国の人々から「日本鬼子（リーベンクイズ）」と恐れられ、直接間接的に300人以上の中国人を殺し、1900人以上の人を拷問にかけました。しかし、中国当局の衣食住をはじめとした、生活全般にわたる温かい配慮と、非業の限りをつくした戦犯に対して、人格を認め、常にやさしく接してくれた行為によって、日本兵が次第に反省と自己批判の立場に移っていったことを学びました。

そして、平頂山事件の記念式典では、JR東労組として本部書記長の加藤団長が挨拶をし、事件から87年を迎えて、当時日本人が犯した残虐行為への謝罪と二度と同じ過ちを起こさないために日本の地で反戦平和のたたかいを推し進めることを誓いました。

総括会議では、職場でどのように伝え広めていくか議論になり、「平和運動よりも優先することがある」「この組織状況で平和運動をやっている場合か」という意見があり、一人ひとりが悩み葛藤している現実が出されました。改めて、平和運動の大切さを広めていくことの難しさを痛感しましたが、憲法9条の改悪が目指され、同じ過ちが繰り返されようとしている現実に対し、危機感を持つことの重要性和、現地に足を運び、自ら感じ学ぶことを通じて、当事者意識を持つことの必要性を認識しました。そして、平和運動に立ち上がる仲間をつくり出すために、自らが新たな仲間を研修に組織化していくことを確認しました。



九・一八歴史博物館



撫順戦犯管理所



平頂山事件式典

総括会議



過去に労働組合として戦争政策に賛成し、戦争へ突き進んでしまった現実を反省することを通して、加害の歴史から目を背けることなく、二度と同じ過ちを繰り返さないために平和の大切さを広めていこう！！